

山北営農だより

令和7年4月
TEL : 75-1311



【お茶】

病害虫防除 3月上旬～4月上旬

○カンザワハダニ バロックフロアブル 摘採14日前 1回 3,000倍 33ml/100㍓

○もち病 ドイツボルドーA 摘採14日前 1回 500倍 200g/100㍓

施肥 4月 芽出し肥 摘採20～30日前に10aあたり硫安40kg（2回に分けて行う）

一番茶の摘採 本茶の摘採 4～5葉展開を待ち1芯3～4葉を摘みましょう。

刈番茶の摘採 遅れ芽が揃ってから行いましょう。（摘採後7～15日）

一番茶の摘採面で刈る事がポイントです。

一番茶の刈り残し（残してきた1～2節）を絶対にとらないこと。

※摘採後は生葉ムシに注意し、日陰の涼しい所で管理しましょう。

——【温州みかん・中晩柑】 *下線部は重要防除です。必ず防除しましょう。——

病害虫防除 4月上旬 ○ミカンハダニ アタックオイル又はハーベストオイル又はスプレーオイル
100倍 1,000ml/水100㍓（ハダニ防除は冬季に散布した場合は不要）（3月散布の場合は80倍）

※カイガラムシ類を多く見かけた場合、アブロード水和剤1,000倍14日前3回をマシン油に加用し散布。
4月上中旬(温州みかん)

そうか病 デランフロアブル（劇）収穫前30日 3回 1,000倍 100ml/水100㍓

又は イデグリーン水和剤 500倍 200g/水100㍓（薬害軽減のためクレフノン200倍を加用する）

※イデグリーン水和剤はマシン油乳剤との混用およびマシン油乳剤散布後14日以内の近接散布は避けてください。デランフロアブルはかぶれやすいので注意する。また、かぶれる人はイデグリーン水和剤を使用しましょう。そうか病は新芽が出そろった時期に散布しましょう。前年多発園では必ず散布しましょう。

——【うめ】 *下線部は重要防除です。必ず防除しましょう。——

病害虫防除

4月上中旬 かいよう病 マイコシールド 収穫21日前 4回 1,500倍 66g/水100㍓

黒星病 デランフロアブル 劇 収穫14日前 2,000倍 2回 50ml/水100㍓又は

ベンコゼブフロアブル 収穫21日前 1,000倍 3回 100ml/水100㍓

アラムシ類・ケムシ類 ダントツ水溶剤 収穫前日 3回 2,000倍 50g/水100㍓

4月下旬 かいよう病 マイコシールド 収穫21日前 4回 1,500倍 66g/水100㍓

黒星病 ストロビードライフフロアブル 収穫7日前 3回 3,000倍 33g/水100㍓

カイガラムシ類 アブロードエースフロアブル 収穫7日前 2回

1,000倍 100ml/100㍓

5月上旬 黒星病・すす斑病 スコア顆粒水和剤 収穫前日 3回 3,000倍 33g/水100㍓

※かいよう病は降雨時に感染するので、降雨前の散布を心掛けましょう。

＜黒星病の防除について＞

黒星病の発生が非常に多くなっています！4月上中旬、下旬、5月上旬の春先の防除が有効になりますので徹底しましょう！特に、今まで5月上旬の防除をされていない園は、4月の防除に加え今年は必ず防除をするようにしましょう！

*2週間間隔で散布しましょう。

*前年の被害枝は切除しましょう。

摘果 4月下旬～5月上旬

果実の大きさが大豆程になった頃が適期です。早く仕上げるほど、肥大はよくなります。

樹木の着果量を確認して小玉果や群状結実しているところを摘果しましょう。

特に梅酒用品種は早期大玉果の出荷が高単価につながります。

——【キウイフルーツ】*下線部は重要防除です。必ず防除しましょう。——

安定した価格で取引されています。高品質な果実生産のため、防除を徹底しましょう。

4月中下旬 花腐細菌病・かいよう病 コサイド3000 2,000倍 50g/水100ℓ
(薬害軽減のためクレフノン200倍を加用する)
カイガラムシ類・キロヒメヨコバイ アブロードエースフロアブル 1,000倍
収穫前日 1回 100ml/水100ℓ

——【レモン】*下線部は重要防除です。必ず防除しましょう。——

4月上旬 〇ミカンハダニ アタックオイル又はハーベストオイル又はスプレーオイル
100倍 1,000ml/水100ℓ

※カイガラムシ類を多く見かけた場合は、アブロード水和剤 1,000倍 14日前 3回をマシン油に加用

——【水 稲】——

塩水選 水10ℓに対してうるち種子は 塩2.15kg、もちは 塩1.26kgを目安としてください。

浮いたモミを取り除き、底に沈み充実した種モミを種子として使用します。

種子消毒 **塗抹処理** (農薬液と種子を一緒に混ぜ、種子に均等に付着させる方法)

種モミは十分に乾燥させ使用する。薬液量は種モミ重の3%で、種モミをかき混ぜながら薬液を垂らし付着させる。処理後も薬剤の効力は持続するので、処理後貯蔵することも可能。

(例) 乾燥種子10kg 薬液300ml

(テクリードCフロアブル40ml + スミチオン乳剤3ml + 水257ml)

* 種子消毒には浸漬処理もありますが、農薬の廃液が生じない塗抹処理が望ましい。

浸 種 消毒済の種モミは、水切り後自然乾燥(水洗いはしない)し水道水に浸して催芽(ハト胸状態)させましょう。有効な水温は10℃以上です。目安は水温の積算温度100℃(20℃の場合5日)です。

播 種・出 芽 播種量: 乾モミで150g~180g/箱

育苗土消毒 播種直前 1箱当たりナエファイン粉剤(6~8g)を土と混合する。

又は1箱あたりナエファインフロアブル(2000倍)の希釈液を500~1000ml
かん注し、その後播種する。

播種時 1箱あたりタチガレエースM液剤(1000倍)+ダコニール1000(1000倍)
の混合液500mlをかん注し、その後播種する。

育苗肥料: 20g/箱(育苗土に配合されている場合は必要なし)

温度管理: 積算温度60~64℃で出芽させる。育苗器の場合、30℃で2~3日。

育苗管理

1cm程度出芽したら、平らに並べ育苗する。

昼間: 20~25℃、夜間18℃程度で、概ね7日間で緑化させる。床土保温のため、箱を広げてすぐの夕方のかん水はせず、急激な温度変化を避けましょう。

近年、温暖化の影響で天候不順が起きやすくなっており、育苗期間中の病害も発生しやすくなっています。種子や培土の消毒、育苗期間の温度管理は徹底しましょう。

——【野 菜】——

定植準備 3月下旬より

定植約1ヶ月前、苦土夕加と堆肥を施用し、よく耕耘して野菜苗の定植準備をしましょう。

購入した苗を定植する場合、栽培環境に慣らすためすぐに定植せず1週間程度は畑の近くに置いておきましょう。また、定植数日前にマルチをかけ地温を高めておくと根の活着が良くなります。

元 肥 定植前に施しましょう。1aあたりの使用量

	シシアンS 806	ようりん
キュウリ	15kg	4kg
	CDU燐加安S555号タマゴ	ようりん
トマト	7kg	5kg
ナス	8kg	4kg